



FSCだより

北里大学獣医学部 附属フィールドサイエンスセンター

第 56 号 2015. 1. 30

FSCの設立趣旨

土地、植物、動物及びそれらを取り巻く環境を生命系として教育・研究を行うとともに、これらの研究成果を通して、広く地域社会の発展に寄与することを目的とする。

十和田農場から

デントコーンの収穫とサイレージの給餌開始

十和田農場では、牛の冬場の餌を主にデントコーンサイレージで賄っています。従来はバンカーサイロで生産していましたが、昨年度から試験的に外部委託して、裁断型ロールベールパックにしてもらって貯蔵しています。

今年は10月7日から収穫が始まりました。デントコーンを刈り取り細断するコーンハーベスターと、ロール状に圧縮する裁断型ロールベラーを並走させて作業します。出てきたロールはラッピングマシンが拾ってラッピングしていきます。3台の機械をそれぞれ1名、計3名で操縦し、2日間で作業は終了しました。以前の作業効率から比べると雲泥の差です。また、以前のバンカーサイロよりも密閉度が高いため品質もよく、小分けになっているので腐敗によるロスが少なくなりました。



給餌は11月25日からスタートしました。牛にとっては待ちに待ったデントコーンです。以前は、バンカーサイロから給餌する分のサイレージをリヤカーに積みこんで、牛舎に運び入れて給餌するというスタイルだったため、給餌だけで一仕事でした。このロールパックになってからは、タイヤショベルでロールを牛舎に運んで、牛舎内で開封して給餌しているので、給餌方法もかなり簡便化されました。また、以前は山羊舎やめん

羊舎までの運び入れが困難だったため、めん羊、山羊にはデントコーンを給餌できませんでした。ロールパックになってからはそれぞれの畜舎に運び入れることができ、小分けになっているため給餌量が少なくても腐敗する心配がないため、山羊やめん羊にもデントコーンを与えることができるようになりました。山羊もめん羊も喜んで食べています。



紅葉祭に参加しました

10月11日、12日の二日間、獣医学部の文化祭「紅葉祭」に参加しました。

2年前から十和田農場として参加し、様々な展示やクラフト体験などを実施しています。今年が目玉は、大画面の写真展示です。農場の風景を大きく印刷して、広大な景色やかわいらしい動物たちの様子をよりイメージしやすいような展示を目指しました。



また、今年は糸紡ぎ体験を新たに試みました。ドロップスピンドルという道具を使い、糸紡ぎの原始的な方法を体験してもらいました。我々もみなさんに教えるためになんまり練習を積みましたが、均一な糸を紡ぐのは困難でした（それが手紡ぎの良さでもありますが…）。それほど熟練の技術を必要としますが、どのようにして毛糸が出来上がるのかをみなさんに知ってもらえることができたみたいです。相当苦勞してできた糸を手にして、「これからはセーターを大事に着ます」と言って持ち帰っていかれました。



八雲牧場から

大北海道展（伊勢丹相模原）に出展

10月15～20日に、伊勢丹相模原店で行われた大北海道展に北里八雲牛と草熟北里八雲牛の商品を出展しました。今回も、北里大学本部総務課やライフサービスなどの協力により、多くの商品を販売することができました。

北里八雲牛が第4回北海道肉専用種枝肉共励会で若齢肥育賞を受賞

10月17日に、北海道アンガス牛振興協議会と北海道日本短角種研究会の共催で、第4回北海道肉専用種枝肉共励会が開催されました。

本共励会は、帯広畜産大学の口田教授による枝肉断面解析画像を基にした評価により北海道知事賞、赤身賞、経産肥育賞、若齢肥育賞が決められます。北里八雲牛は、一昨年の最優秀賞（北海道知事賞）、昨年の経産牛肥育賞と毎年、賞を頂いています。今年も、出展牛の中から有機北里八雲牛が若齢肥育賞を受賞しました。受賞理由は放牧を主体とした自給粗飼料100%で生産されていること、産肉性が高いことが評価されました。今回の若齢肥育賞の受賞は、今までの出展牛もそうでしたが、放牧と自給粗飼料だけで牛肉生産が可能であること（穀物多給で霜降り牛肉主流である日本の畜産業界では草資源だけでは牛肉生産することは無理、無謀と言われていた）を北里大学が長い年月をかけて証明してきたことが改めて認められたものだと思います。



東都生協未来フェスタと販促活動

10月17～18日まで、東都生協未来フェスタと販促活動に折目主任が参加しました。

未来フェスタには、2,000人を超える来場者があり、東都生協と取引のある会社の食品や雑貨が展示販売され、北里八雲牛のブースでは、しゃぶしゃぶと焼き肉の試食とアンケート調査を行い、500人以上から来場者からアンケートを回収することができま

した。来場者には、北里八雲牛と北里大学について、広く周知することができました。

今回の参加は、東都生協が主体となっていて行っている独立行政法人農畜産業振興機構ALICの国産食肉等新需要創出事業の一環として、参加に係る経費を助成して頂きました。

独立法人農畜産振興機構 ALIC の国産食肉等新需要創出事業関連

10月21~22日ALICの理事他が八雲牧場に来場し、北里八雲牛が放牧されている様子や生産農家を見学し、地域普及の取組みについて、理解を深めていただきました。

また、10月25日には、ALIC事業の一環として東都生協から組合員と職員が八雲牧場に来場されました。北里八雲牛の販売拡大などについてグループディスカッションを行い、キャッチコピーなどを考えました。

11月8日は、同じくALIC事業の一環として東都生協杉並センターで行われた販促活動に八雲牧場から佐藤職員が出向いて参加しました。ちらしやパンフレットを使って北里八雲牛や北里大学について、来場者に説明しました。

今期の放牧終了

秋も終わりによいよ雪のシーズンです。10月下旬から徐々に牛達の下牧が始まりました。牛達も放牧草が少なくなってきたからか早く牛舎に戻りたがっているように見えます。今年も収穫が無事終了し、豊富とまでは言えませんが十分なサイレージを確保することができたので、春までに十分栄養を蓄え大きくなってくれることを祈っています。



生薬栽培終了

今年から東洋医学総合研究所、薬草植物園、薬学部とともに始動した八雲牧場における生薬栽培でしたが、圃場への牛の侵入などの苦難を乗り越え、キクカ、シソ、ニホンハッカの収穫が無事終了しました。初めての経験であることもあり、収穫方法等まだまだ検討の余地がありそうですが、来年の栽培に向けて順調に進んでいると思います。



(編集担当：畔柳 正)